

---

# 緋弾のARIA ロンドン連続殺人犯を追え

橘花

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

緋弾のアリア ロンドン連続殺人犯を追え

### 【Nコード】

N4635Y

### 【作者名】

橘花

### 【あらすじ】

アリア一行の許に舞い込んだ奇妙な依頼。そして、依頼を受けたその時に、突然の瞬間移動タイムスリップ。現れたのは19世紀末期、産業革命下のロンドンだった。そして、あの悲劇の連続殺人が起こっていたのだった。

これは実在したある連続殺人犯をアリア一行が捕まえようとする話です。また、この時に原作設定で実在したはずのあの人が出ないと言うのが残念です。なぜなら、この時は出張と言う何とも丁度良い

タイミングなので。

少し、史実に手を加えております。あの人もワンシーン程出たりね。これは私の書いている『緋弾のアリア』と一部の設定がコラボしますが、物語的には一切関係ありません。

史実と違う部分もあります。かなり酷い模写もあります。ご了承ください。あと、原作名にコナンが書かれておりますが、コナンをはじめとする、人間は一切出ません。

## プロローグ（前書き）

緋弾のアリアって結構、派生作品が作れるし、思いつくもんだね。  
あと、理子の司法取引前、っと言っ設定です。設定的には、ジャン  
又戦が終わった後位かな？

## ブローグ

「ねえ、キンジ。」

ここは、武偵高校から少し行ったところのメガフロートの端。海岸線。

「何で、皆を呼んだの？」

集まったのは、キンジ、アリア、レキ、白雪、明。

「いや、その。俺の単位不足を補うためにある依頼を受けたのだが、その依頼主からの通達が危機的状况に陥っても信頼できる人間を全員連れてきてくれって言うのでさあ。」

「え？そ、そ、そうなの？」

アリアは少し赤面。

「キンちゃん、私を、き、危機的状况に陥っても信頼できるんだね！？」

軽い発狂しながら赤面。レキと明は無反応。

「それでさあ、依頼主の指定した場所がなんだけど。」

誰も居ない。メガフロートにぶつかる波の音が聞こえる程度。

「変だなあ。」

その時、

「あ、あのう。」

現れたのは、フードを被る女性だった。

「え、えと、貴方が依頼主の。」

キンジが聞く。

「は、はい。私が依頼主のメアリーです。」

フードを取ると、白人。イギリス人と思われる名前。

「今回の依頼が奇妙なのですが、あれは一体？」

「受けてくれますか？」

「え？い、一応内容を聞いてから受けるかどうか。」

「受けてくれますか？」

なおも聞いてくる。それに押される形で、キンジは

「う、受けます。」

っと、言ってしまった。すると、そのメアリーと名乗った女性は手紙を取り出す。それをキンジが受け取るうとすると

「依頼はこちらに書かれております。それでは、宜しく願います。」

そう言うと、突然女性は消え、そしてキンジ達は青い空間に取り込まれる。

「なあ、キンジ、どんな依頼だったんだよ？」

この空間に居ても明とレキは冷静だった。

「よ、よく分かんねえんだよ！ただ、単位が良かったから引き受けちまっただけだ。」

「そんな理由で引き受けたのキンジ！？、後で風穴を開けるわよ。――」

アリアはいい加減な気持ちで受けたキンジと、自分も巻き込まれたことでキンジに当たる。

「き、キンちゃん。怖いよ。」

キンジに抱き着く白雪。

「わ、ちょ、少し離れてくれ白雪。」

そして、ようやくその青い空間から出た。そして、見渡す光景から

「ここは、ロンドン？でも、現代ではないな。」

霧らしきものが立ち込めている。明は大よその時代を判別する。

「この微量の石炭の香り、恐らくは産業革命下のロンドンだろう。ビッグベンも今と違って真新しさが残っている。」

「じゃあ、この霧はスモッグか？」

キンジが明に聞く。

「ああ。しかも、こんな酷い状態だと言う事は、産業革命下だろう。恐らくは19世紀末期だと思われる。」

「20世紀の幕開けを控えるロンドンか。日本じゃあ、確か日清戦争が終わった辺りだろう。」

「そうとは限らないが、近いかもしれんぞ。」

明が言ったところで、アリアが

「ねえ、いい加減依頼が何なのか見せなさいよ。」

キンジに言う。

「あ、ああ。分かった。」

手紙を広げて、レキを除く全員が驚く。

『ジャック・ザ・リッパーを逮捕して頂きたい。』

「ジャック・ザ・リッパーって？」



キンジや白雪は名前程度なら知っているが、詳しくは知らない。

「19世紀末期、ロンドンを恐怖のどん底に陥れた連続殺人犯よ。」

アリアが説明する。

「しかも、現在でも正体不明の連続殺人犯だ。殺害数は確実に5人。被害者の判明していない被害者の中でジャック・ザ・リッパーが殺害した可能性がある」とされているのを合わせると20人ほどいる。」

明が補足説明する。

「それに、犯行確実の5人は売春婦だと言っ事です。」

レキも説明する。

（い、意外だな。レキも、知っているとは。）

明が驚きながら聞いていた。

「そう言う訳ですので、白雪さん。あまり、キンジさんにベタベタしない方がいいですよ。」

レキが白雪の方を向いて言う。

「まあ、とりあえず正確な日付と情報収集を。」

キンジがそう言いかけた時、悲鳴が聞こえてくるのだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4635y/>

---

緋弾のアリア ロンドン連続殺人犯を追え

2011年11月17日17時17分発行